

# コロナ禍で相次ぎ中止

公益財団法人フランス語教育振興協会は  
仏検存続のためのご寄付をお願いしております  
Appel au don pour la survie du DAPF-Futsuken



## 仏検

皆さまの温かいご支援に厚く御礼申しあげます  
ご寄付の受入状況はこちらでご報告しております

寄付を呼び掛けるフランス語  
教育振興協会のホームページ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外国語検定試験の運営団体が苦境に陥っている。会場を借りられないといった事情で試験ができず、収入の大半を占める検定料が入らなくなっているためだ。関係者からは、検定試験だけでなく、外国語教育への影響を懸念する声が上がっている。

(大野孝志)

# 外国語検定 難題に直面

## 会場取れず「命綱」検定料入らず

「仏検の実施はおろか、実施団体である協会の存続すら危ぶまれます」。一九八一年以降、累計九十万人弱が受験した実用フランス語技能検定(仏検)を実施しているフランス語教育振興協会のホームページ(H.P.)に六月、「【緊急】『仏検』存続のためのご寄付のお願い」というタイトルの文章が掲載された。

今年にはコロナの影響で会場が確保できず、六月の春季試験を中止せざるを得なかった。例年、会場になることが多い大学が、オンライン授業になって閉ざされたのが大きかった。

来年で四十年になる仏検の歴史で、中止は初めて。協会の事業収入の九割を検定料が占め、春の中止だけで六千万円を失った。検定用の教材を発行する出版社や大学などから約八百五十件、千六百万円以上の寄付が集まったものの、安定した運営には足りないという。

十一月の秋季試験は実施予定で、今月十五日に出願受け付けを始めた。ただ、どれだけ出願者がいるか読めない上、密状態を避けるために定員減や時間割の工夫が必要になる。協会の西沢文昭理事長は「秋の試験をやらないと財政が立ちゆかなくなる。仏検を使う大学の推薦入試や留学の選考にも影響する」と語る。

スペイン語技能検定は春に続いて秋も中止に。日本スペイン協会はH.P.で、受験者の安全確保が難しいのに加え、例年借りている会場が使用できないことを理由に挙げた。

二エースの追跡

## 主体の民間、存続懸念 教育機会守る支援を

実施主体の日本英語検定協会も加盟する全国検定振興機構は消毒と換気の徹底、席の間隔を空けるといった対策を盛り込んだ指針を策定した。機構の吉田博彦理事長は「そうした状態で試験はこれまでやったことがない。指針に沿ってやるしかない」とはいえ、それで事業として成立するのかが不安を口にする。

英語以外の外国語検定を担うのは、財政基盤が小さい団体为中心。中止や人数を絞った形での実施が続けば存続が危うくなる。筑波大グローバルコミュニケーション教育センター長の白山利信教授(外国語教育)は「能力を持つ学生が、外国語検定が必要な大学の推薦・AO入試などに挑戦するチャンスを失う。非英語圏で活躍する人材の減少にもつながる」と指摘し、こう提言する。

「検定は公的な役割を果たしているのだから、国のコロナ対策を活用した支援が求められる。それだけでなく、インターネットで資金を集めるクラウドファンディングや、民間が試験会場を安く貸すなどの方法で支えてはどうか」